

サバヌシ総会2022

緊急アンケート 結果発表

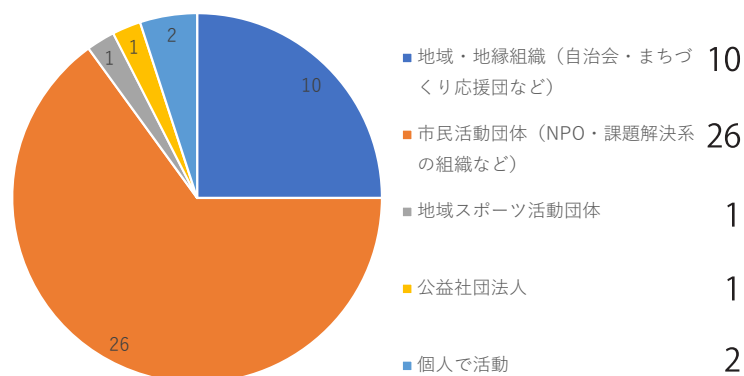
募集期間：2022（令和4）年
3月5日～20日

回答数：40人

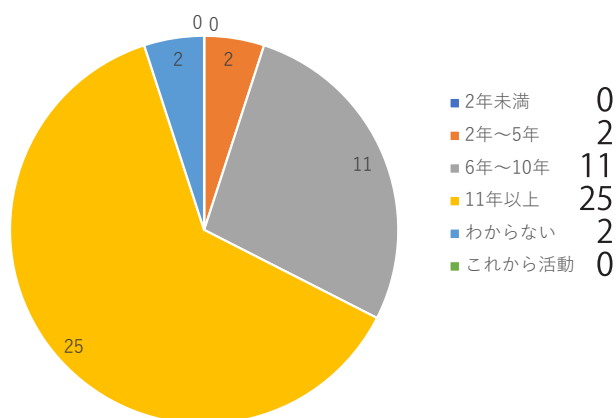


サバヌシ総会実行委員会

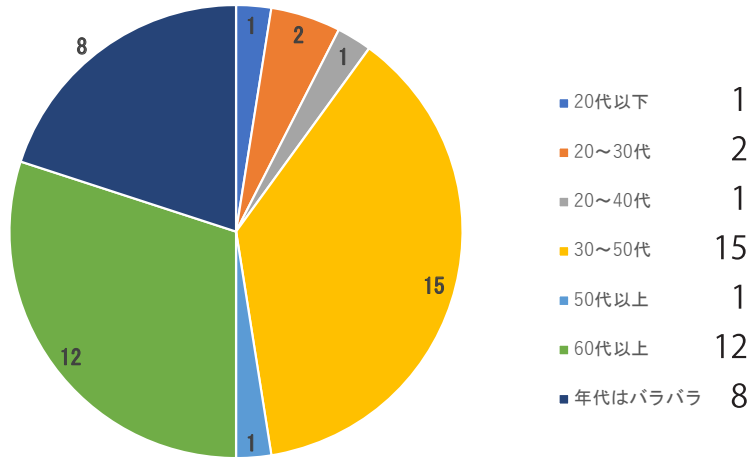
団体・組織カテゴリー



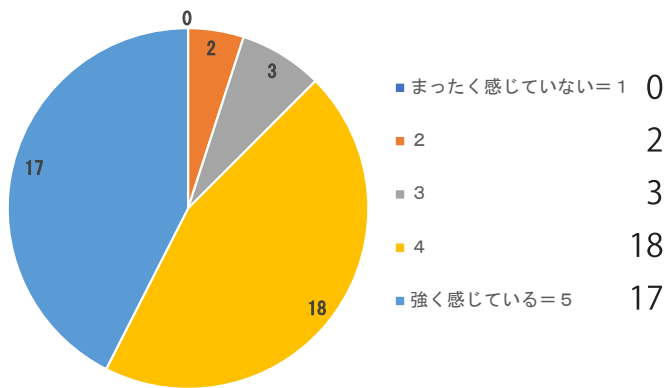
その組織ができてから何年？



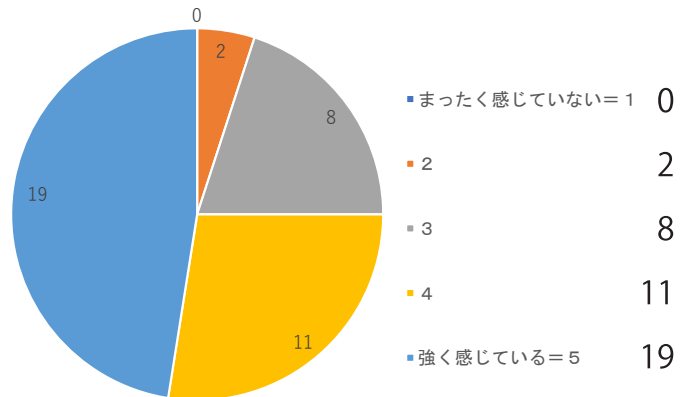
組織の中心メンバーの年代は？



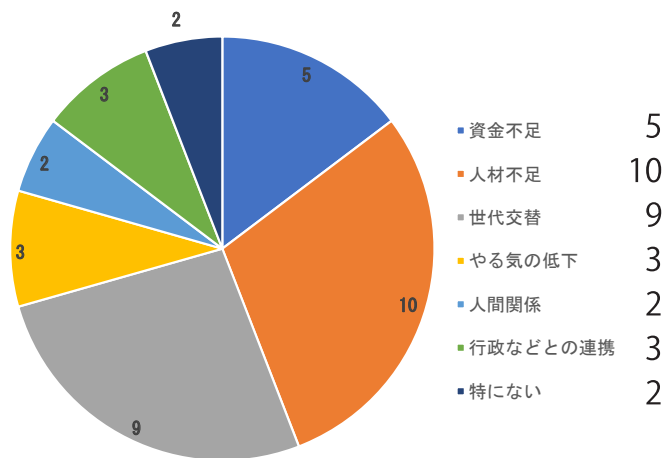
個人として活動への意義は？



個人として活動の中で課題や問題点は？



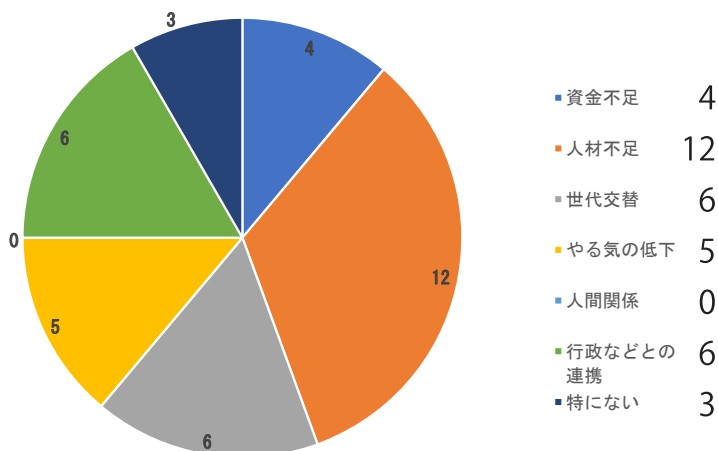
課題や問題の【第1位】



※その他
6

- ・活動施設確保
- ・組織作り。
- ・会員の参加意識の差
- ・協議する前に個人が突っ走っている。会議ではその説明で一人で喋っている。
- ・コロナ禍での活動
- ・会議の時間帯やタイミング

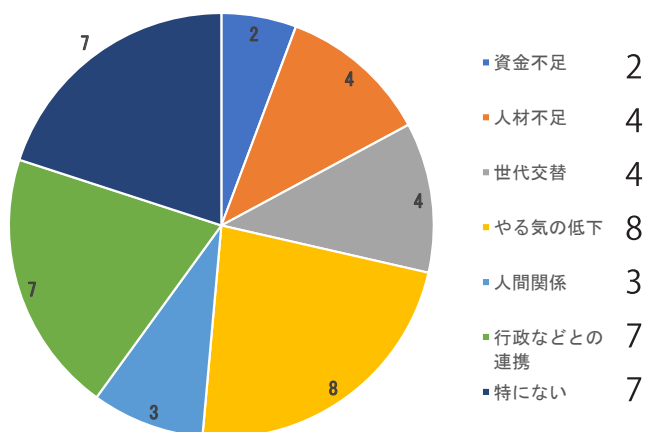
課題や問題の【第2位】



※その他
4

- ・どうやってみんなが主体的に動くか。
- ・若い世代の減少による会員数の減少が見込まれる
- ・メンバー間（世代間？）の価値観の違い。
- ・コロナ禍で活動縮小

課題や問題の【第3位】

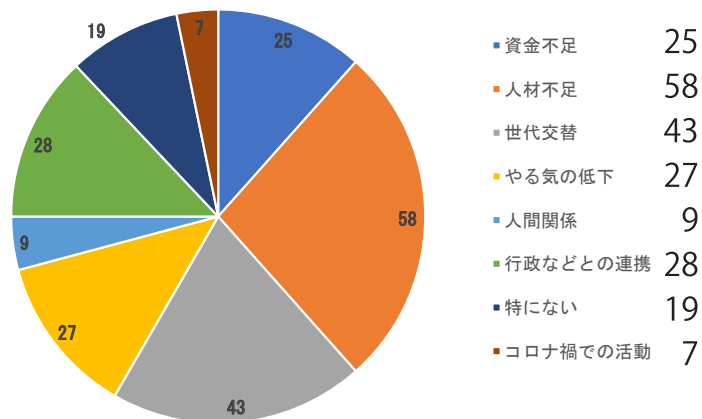


※その他
5

- ・コロナ禍で思うように活動できない
- ・女性会員の割合が低い
- ・協議を経ず直接会計から支出させている。
- ・コロナ禍で活動の話し合いが出来ない
- ・常駐と非常駐スタッフ間のコミュニケーション

課題や問題の【総合】

※1位…3点/2位…2点/3位…1点として計算



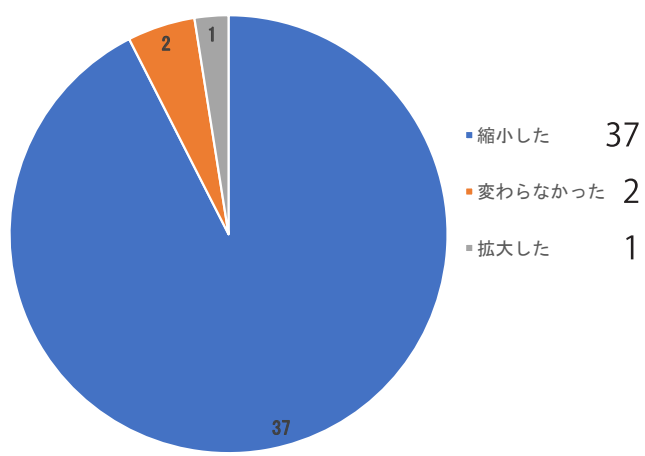
●課題や問題についての「詳細」や「本音」があれば

- ・鯖江市が子供達の活動を制限している意味がわからない。福井県の言いなりで、鯖江市として何かを考えての判断だとは思えない。ましてや子供の運動活動を止めれば止めるほど健康被害は大きくなると考えている。
- ・50代から下の世代に、引き継ぐための努力をしているが、仕事現役世代が市民活動に向けられる時間は多くない。余裕もないのかもしれない。
- ・事業を増やすのと組織を整えるのを同時にやらないと大変！
- ・組織がおおきくなり物事が簡単にはできなくなってきた。
世間に団体名が認識されて、コロナ禍の活躍をやりにくくなってしまった。
- ・コロナ禍で講座の延期、中止、再開が煩雑でインストラクターのモチベーション維持と予定していた活動からの謝金の予定が立たない。
- ・これらの課題や問題は有って当然
- ・各事業 市民より本当に必要とされているのか？
地域の将来に必要とされているのだろうか？
打ち上げ花火や祭りごとのような事業をする時代ではなくなりそう

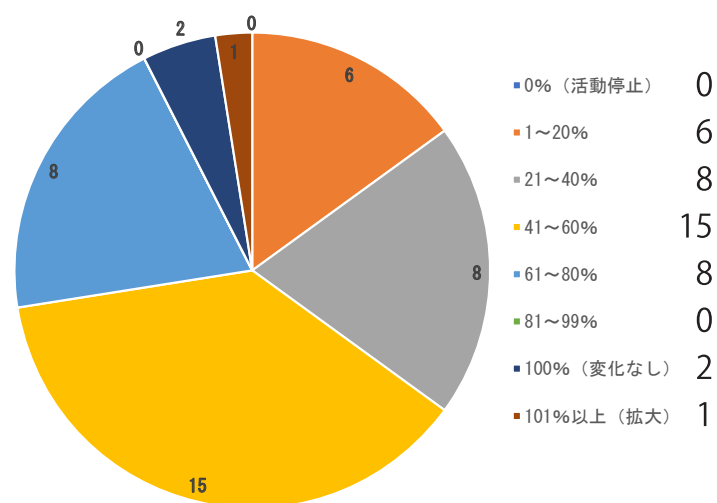
- ・定年があるため、ボリュームのある40代後半が卒会していく事により、会員数の減少が見込まれ、マンパワーと動かせる資金が減少していく。
- ・会員募集をしても会員が増えない
- ・入会希望者もなく、現会員は高齢者ばかり
- ・良くも悪くも「人」を起点に進んでいく、同時に、想いや考え方なども同じくらい重視しないといけない
- ・当団体は高齢男性の出番と居場所となっている。一生懸命やっているので強く言えないが、ある程度意見して軌道修正するのが自分の使命だと思っている。
- ・団員不足の深刻化、団員のモチベーションの低下、行政の求める形と自団体の考え方の違い
- ・横の繋がり、関係、便乗、コラボレーションが薄い気がする
団体会員の現状や活動をもっと知っておくべき、団体会員の連絡協議会を復活させてみてはどうでしょう？
- ・同じ「青少年育成事業」でも、ボーイスカウト等のようなオフィシャルな団体との扱いの違いを痛感する。
- ・アイデア(仕掛け)不足と推進 伴う結果

- ・ **市民活動の一番の基盤はネットワーク**だと思うので、各メンバーの人間性やコミュニケーション力がとても大きな要素だと思う。
個人的な思いや立場へのこだわりが強すぎて、このネットワークを壊しかねない人も時々見られるので、そのような人をどう包含する社会にするかのイメージを共有できればうれしい。
 - ・ 人材不足／世代交替
…孫育て、パート就労の他介護などで、自分の時間を他に当てる一歩が踏み出せない方が多く、お誘いに苦慮している。
…活動が制限されている中、実感できる活動体験が減少しているのも一因。
 - ・ やる気の低下…ラインや、文章などで、会への意識低下を防げたらと、意思疎通をはかっている。
 - ・ 特になし
 - ・ 地元の人に関心が薄い(人材不足へのコメント)
 - ・ 若い人のメンバーがいない
 - ・ 無関心世代が多い
 - ・ 他地域との連携、情報交換があると良い
- (1) **コロナ禍のため、家庭訪問など直に話ができないのが困ります。**
地域ネットワークが、こわれかけている。
- (2) 除雪の皆様には、早朝からご苦勞をおかけしています。ただ、横断歩道や曲がり角に残された大きな雪の塊りが、児童たちの登校時の障害になったことは否めません。
歩道の除雪も考えていただきたい。

コロナ禍での活動状態



コロナ禍前に比べた活動ボリューム



●コロナ禍での活動アイデア

- ・オンラインでの活動を充実させた。
- ・オンラインを利用しての会議などを行う。その技術の習得を目指す。
- ・どうやったらできるのかを「考える」ため、自分事になっていくとともに一体感が出た。
- ・SNSの、発信。
- ・リモート同士を繋げた自治体毎の連携
- ・コロナで対面型の活動や地域活性化事業が難しいが、オンラインを使っでの活動を粛々と続けている。
逆に市外や県外各地のメンバーとのオンラインでの交流や連携の事例は増えているように感じる。
- ・発表の場がない為に、踊りの稽古に打ち込める……が真剣味がない
- ・収まるのを待つ
- ・鯖江では「今までそれぞれで」という活動が多かったが「みんなで一緒に」という方向性が強くなっていったように感じる。SDGsの浸透や、コロナにより、変革を求めた動きが起こっているのだと思う。
一度、新たな知見（SDGs、ゼロカーボンなどにより求められる社会）と、SNSなどツールにより繋がりがやすくなったことを活かして、未来像を描く場を設けるといいと思う。2030年2050年のあるべきさばえ（行政）、ありたいさばえ（市民）を描きそこから今何をしないといけないのか、考えていき、バックキャストの活動を行う。

- ・オンラインの活用
- ・Zoom等での会合／zoom等の活用
- ・ルール、条件が厳しくなるかもしれませんが、イベントetc. は実施する方向で進みたい。
何もかも中止にする必要はないと思う
- ・参加募集の定員を半分にして、活動を継続中。
- ・発信による気づき
- ・ツールはリアル／リモートを問わないが、とにかく少しずつでもコミュニケーションをとり続けることを忘れなければ、ネットワークはある程度維持できると感じた。
- ・逆に教えてください。
- ・コロナでストレスがあるので機会があればやりたい
- ・自宅でもできる家庭学習として、会員の「食品ロス」のアンケートとり。（実態把握）
- ・キャンセルになることが多いが、寸劇での啓発出前講座の予定表配布。
- ・わずかでも出来た活動の感想、提案の聞きとりと、お礼を伝える。
- ・丹南ケーブルTVに出演して、活動の一部を可視化した。

- ・一日も早くおさまってほしい
- ・ハイブリッド型の会議、イベント
- ・自己研修…県内視察、実習、旅行
- ・アウトドア活動の好機（三床山を愛する会）
- ・コロナ禍の歴史を学ぶ
- ・コロナ禍によって、計画された様々なイベントが中止に追い込まれました。
市では、助成金など、事業予算を組まれたことと思いますが、中止になった事業予算は使われずに残っているはずですが。
単年度予算のため使い切りを進められますが、**余った予算は、何らかの基金に積み立てて、財政健全化の仕組みを創設できないものでしょうか。**
無駄使いは、さげましょう。

●コロナ禍での活動についての「思い」

- ・各地区の「夏祭り」や「体育祭」「文化祭」など地域の活動に参加する機会が減ったが、主催事業である「サンタ宅配便」事業に関しては2年連続、**コロナ対策をした上で開催**できた。
- ・コロナ情報をしっかり把握してなるべく中止にしないでいい方向にもっていきたい
- ・子どもたちとのふれ合いがままならないことが辛い。オンラインで出来る活動内容ではない。
- ・活動目的の共有
- ・文化の館にザ・カーチャンズの自殺防止活動の展示をさせて貰い、入口で自殺防止キャンペーンのチラシ(ティッシュ&マスク入り)が配れた事だけが良かった。(全力投球だった)
- ・コロナ禍を肯定するつもりはさらさらないが、無意識で従っていた組織論やシステム論を問いただすきっかけになった部分もあった。
事業計画や予算消化といった視点優先で、**「本当に社会や地域に必要な者は何か」という根本的な問い**を突きつけられたと思う。
その問いに真摯に対応して来ただろうかという点には、残念ながら自信がない。

- ・前年度は一年間積み上げてきた事業がコロナ禍の中でまったく発揮出来なかった。その悔しい思いを今年度に再度トライと思い描きましたが、結果20%程度しか達成ができなかった。次年度は三度目のトライです。コロナに負けないよう前進あるのみです。また、一緒に活動している仲間にもなかなか直接会えることができなかったのが心残りです。次年度は**たくさん面と向かって話しがしたいし、生の声が聴きたい！**
 - ・他の団体も冬眠状態なので、今のうちからつながりが持てないか打診していきたい。
 - ・流れに任せ活動をこなすことより、いかに仲間意識を持って考え合わせていくことが大切かを知った。
 - ・十分な活動が出来ないこと、特に会合が出来ないこと
- ※（コロナ禍が原因で課題が発生したと考える部分は）会合の人数制限、会合の場所など

<豊の宝を見つけよう応援団>

- ①お宝ウォーク ②講演会 ③定例会 ④研修会を例年通り実施
- コロナ禍でも予防対策をやりながら実施、特に問題なし。

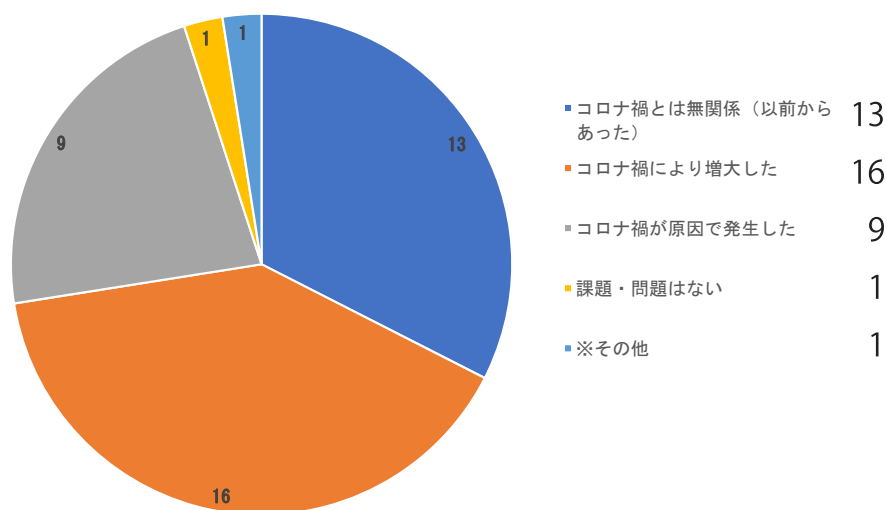
<三床山を愛する会>

- ①山開き(春)…実施 ②のろしりレー(秋)…中止※他の場所が中止となった為
- 但し、コロナ禍由に自然体験を、疎を求める動きがある。

※課題・問題とコロナの関係「コロナ禍が原因で発生した」にチェック
「…イベント等が規制された」のコメント

- ・消毒、マスク、手洗いなど、基本的な感染予防としてのぞんだことが、幸いしていると思います。

課題・問題とコロナの関係



無関係のものもあるが、それぞれの仕事・家庭などへのコロナの影響が大きく、活動する余裕が減少する会員もいるのではと思われる。